

## 子どもの心を豊かにするもうひとつの秘密

保育科教授 喜友名 静子

「絵本」、「昔話」と聞くと、心の本棚の扉が開く。加齢とともに棚に並ぶ絵本の種類が異なっている。自己の心の発達に沿って、人生の感動や共感に変化が生じた証拠である。わが幼少期、片田舎まで「絵本」は押し寄せてこなかった。そのことが良かったのか悪かったのか判定つけがたいが、唯一云えることは、「親が語る」昔話に浸りきっていたことは確かである。夕食後、父親が語る「沖縄昔話」がベッドタイムストーリーとなる。あるときは満点の星空を仰ぎながら、あるときはランプのやさしい灯の下で聞いたお話は、「あの時代」のまま心に住み着いている。人生の大嵐の中でも揺るがない「幸せの塊」として。大学生になって文字化された昔話を読み、何か色あせたイメージだった。その理由はなにか？なぜか？幼い頃のファンタジーの世界は大宇宙を遊泳し、そして語り声の温もりになって細胞に染み込んで入るのかも知れない。

「絵本の世界」は、保育科学生時代に生活領域に入ってきた。むさぼり読んだのは4大時代。教科目と学友たちの影響が大きかった。貧乏学生はよく図書館を活用した。卒業後月一の誕生日には「お気に入り」の絵本を購入した。一年間に12冊の絵本が財産となる。絵本との出会いを大切にすることは、今なお継続中である。選択基準は子どものための教材・教具選択ともっぱら自己の内なる世界のため用である。後者は我が心を落ち着かせまた夢を広げてくれる。

学生たちに100冊の絵本のレポートを課したことがある。在学生の評価は最悪。しかし卒業後の評価は最高得点となる。さらに彼らはいく「後輩にも是非この課題を継続するように」と。在学生諸君すばらしい先輩をもって幸せですね！私は先輩方の黄金言葉を忠実に守るだけです。お忘れなく！！

まあおきが長過ぎたようだ。「保育活動と絵本」について考えてみましょう。

絵本活用に関して保育所保育指針は、「6ヶ月～1歳3ヶ月」児から絵本への興味関心を育て保育者と絵本を見るときとなり、かなり早い年齢から取り入れられている。年長児になると文字学習への発展が期待されている。ところが子どもが絵本を楽しめるようになるためには、文字を読む前に「心情」の育ち、人の心の動きや感情の動きの読み取りが育ってなければならない。この感情の読み取りは、絵本を媒材にして子どもと大人（保育者）のコミュニケーションの中で形成されていく。つまり大好きな保育者の「読み聞かせ」を通して、絵本と対話し、読み手の感情表現を掴みとりながら、人としての感情を育んでいく。

絵本選択には保育者の保育観、人生観が基準となる。IT時代に突入し、他者の生命や痛みを思いやる感情が育ちにくくなっている世代だからこそ、乳幼児期から絵本の世界を通して、物語や登場人物（動物）になり、考える力、想像力、そして行動力が育つことが重要である。絵本の中の間接的な体験から現実の遊びの世界を繰り広げる子どもたちの姿にはいつも驚嘆させられる。

絵本を活用するとき、子どもの育ちや言葉の発達に応えるものでなければ、子どもたちは絵本を楽しめない。大好きな先生に、大好きな絵本を読んでもらってこそ、達成感、満足感、好奇心、探索心が充足する。結果、心の栄養源になる。この積み重ねが、幼児教育が目指す人間形成の基礎となる心情、物事に自分から関わろうとする意欲、健全な生活を営むために必要な態度が形成につながるであろう。そして「絵本」は芸術や読書への入り口となり、子どもに心の自由をもたらす。ここでの必須条件は保育者が絵本

を好きになることである。一番簡単なことは、絵本を楽しむこと。さあ 図書館の絵本を  
読破しましょう。100冊を読み終える頃あなたがすばらしい世界を手に入れることを保障  
します。

---

[前の記事へ](#)   [【ソフォス目次へ】](#)   [次の記事へ](#)

---

## ぐりとぐらってどんな関係？ ～子どもが語る絵本世界の人間関係論～

保育科非常勤講師 比嘉 栄美

卒園を間近にするちょうど今頃。多くの保育園・幼稚園では、子どもたちの確かな成長を見ることができ、進級進学を控えて次への期待が高まる時期です。

その一方で、保育者であれば、自分のこの1年の保育をまとめるという大作業があります。つい数年前までは、私も多くの幼児に囲まれてこの時期を過ごしていました。彼らの生み出した数々の絵や作品を1人ひとりと語り合いながら、思い出のアルバムに整理するという、最も充実感のある活動に取り組む毎日でした。

つい先日もそのような場面に出会いました。お魚スタンプを見つけた3歳男児が、半分に折り曲げられた白紙を指さし、「せんせーい。バインディング(ファインディング)ニモのお話をこっち(左頁)に書いて、こっち(右頁は)ニモの絵だからね。」と自分なりの作品集づくりを始めました。保育者は「北谷の海はニモがいなくなったってよ〜。」別の子は「じゃあ、捜しに行かんとね〜。」とのすごいオチです。会話の成り立っていないようにも思えるやりとりですが、ここで注目すべきは、新しく聞いた言葉をまだ正確に再生できていない幼児が、絵本の文と絵の関係、構造を理解した上で自分の遊びに活かしていることが興味深いのです。

子どもの絵本の理解の仕方は実にさまざまです。今では世界でも大人気となっている「ぐりとぐら」(中川李枝子作・大村百合子絵 福音館書店)についてもこのようなやりとりがありました。

「ぐりとぐらは、いつも一緒だから兄弟でしょ。同じお家に住んでるんだよね。ーそうだよ。お母さんとお父さんはお仕事だから忙しくて、(絵本のストーリー場面に)出てこないんだよ。ーちがうよ。赤と青だからラブラブなんだよー。」

このやりとりは、絵本のストーリー展開とまったく別ものの発想ではなく、絵を読み、お話の筋を理解しているからこそ出てくる子どもの解釈なのです。

児童文学は童話のみならず、昔話や絵本をも含む広大な裾野をもつ世界です。保育科の児童文学では、保育への有用性を鑑みて作者理解を切り口とした絵本鑑賞と考察を試みています。絵本の魅力は、限られた枚数の絵に必要なだけの言葉で、人にとっていちばん大事なことがズンズン伝わってくる表現手段であることです。細かな設定や描写がないからこそ貫けるストーリー展開と、自由な想像がゆるされる楽しさがあります。それゆえに、先のような子どもたちの人間関係観をも垣間見ることができるのです。

絵本にまつわる言葉に、絵本に出会うチャンスは「人生に3度」あり。まず自分が子どもの時、次に自分が子どもを育てる時、そして自分が人生の後半に入った時です。

私がキリ短保育科で児童文学を担当させていただき早4年。皆さんが大学生になって再び絵本に出会うとき、絵本再考が最高！に変化しますようにお願いしつつ、これからも学びの過程を共にしたいと思っています。幸運な保育科の皆さんは、必修科目の言葉指導法に始まりキリスト教保育、選択科目の児童文学まで履修するならば、2年間で最低400冊の絵本に出会うことになります。その否応ない出会いを次第に心から楽しみ、絵本の世界に浸れるようになるか否かによって、子どもたちと共感しうるチャンネルを数多く見いだせるかどうかに関わると思うのです。だからこそ絵本最高！と感じてほしいのです。

さて、最後に「ぐりとぐらクイズ」をもう1つ。「のねずみのぐりとぐら。青い帽子と洋服を着ているのはだーれだ？」即答できるあなたは、かなりの絵本好きとお見受けします。タイトルの「ぐりとぐらってどんな関係？」については、有名な絵本シリーズだからこそ謎が深まります。答えは、後期の授業までの宿題です。

## たましいの食べ物

児童文学作家 吉浦貴子(保育科29期卒)

児童文学とは何かを考えると、いつも思い出すことばがあります。

「わたくしは、これらのちいさなものがたりの幾きれかが、おしまひ、あなたのすきとほつたほんたうのたべものになることを、どんなにねがふかわかりません」

これは、宮沢賢治が「注文の多い料理店」の序文にのこしたものです。

本(物語)で飢えた子どもたちを救うことはできませんが、物語で救われるたましいがあると私は信じています。児童文学とは、幼いたましいの食べ物といえるのではないのでしょうか。

文字が読めるようになるということは、魔法の力を手に入れるようなものです。魔法の力を手に本の扉を開くと、そこには、小人や妖精の世界が広がり、人形と一緒に冒険をしたり、秘宝の謎を追ったり、はるか昔の人々の活躍を知ることできます。そして扉を閉じれば現実に戻り、またいつでも旅立てるのです。なんと不思議なことでしょう。

子どもたちと一緒に「本」の世界を楽しみたくて、児童文学や絵本を読みあさるうち、自分でも物語を創るようになりました。

ことばや物語のとりこになった背景には、キリスト教短大で過ごした日々が大きく影響しています。

首里キャンパスでの学生時代、ため息とともに振り返れば、保育科での成績はどうしようもないものでした。出席番号が最後だったというのは、偶然でしょうか。

あの頃、ギリシャ語の達人、金城重明先生の研究室におじゃましては、ひとつ、またひとつと、ギリシャ語を教えていただき、未知の文字に胸を躍らせました。コーヒーをごちそうになりながら、砂漠に住む人々は、時間というものを「静と動」「生と死」というふうにとらえているというお話をうかがい、時計が刻むものばかりが時間ではないことを知りました。また、照屋敏勝先生が読み聞かせの実演をしてくださった絵本、斉藤隆介の「花咲き山」には、クラス中が涙しました。

いろんな世界に出会わせてくれたギリ短の二年間でした。卒業から数年たち、縁あって青森県に住むことになり、拙い文章で狐の物語を綴りました。

津軽地方に「狐森(きつねもり)」という地名がありますが、そこにはもう、狐はいません。どうしてだろうと調べているうちに、この話が生まれました。いたずら心を起こした少年が狐に「くちハッパ」という罠をしかけます。口の裂けた死体をみた少年は生命の重さを知るのです。この話のなかに、いつのまにか「命どう宝」というウチナーの心を込めていました。私の描くおじいちゃんやおばあちゃんは津軽弁を話していても、心意気は沖縄のオジー、オーバーそのものです。

私が書いた、たましいの食べ物は、ウチナー風味になってしまいますが、これからも物語を生み育てていこうと思います。母校と先生方への感謝をこめて。

最近、学生の頃に泣かされた「絵本を百冊読んで感想を書く」という課題に、また取り組み始めました。その甲斐あって、マーガレット・マーヒーの「紙人形のぼうけん」というすばらしい児童文学に出会うことができ、できるだけたくさん子どもたちに紹介するにはどうすればいいのかと、あれこれ思案の最中です。気持ちは現役！と張り切る中、四年制大学設置認可決定のニュースを耳にしました。

沖縄の子どもたちをはじめ、世界中の子どもたちの大きな光となりますように。

---

吉浦貴子 著作

● 童話

『くちハッパ』第3回盲導犬サーブ記念文学賞(大賞)H8

『由美子のばあちゃん様』青森県民文化祭文芸コンクール(童話準賞)H12

『すきだのひみつ』青森県民文化祭文芸コンクール(童話大賞)H13

『ふたりの夢日記』青森県県民文化祭文芸コンクール(童話準賞二席)H14

『なぞのユーナンギ、ハーメーハーメー』

『ネズミのけっとう』『テレビの神様』『オルガンのうた』

『カラッポのひきだし』『すきなひとだーあれ』『ゆきことウミウサギ』

『とうさん月夜』『雲の糸』『紙がない!』『虹ができるまで』『砂漠の花』 他

●戯曲

『サンアイ・イソバ』

---

[前の記事へ](#) 【 [ソフォス目次へ](#) 】 [次の記事へ](#)

---

## 「児童文学と私」

保育科二年 山里 美哉子

今、「ハリーポッター」や「ロード・オブ・ザ・リング」などファンタジーの世界が子どもから大人まで多くの人々を魅了している。児童文学という子どもを読者対象とした本が映画化され反響を呼んでいるのだ。児童文学とは何か、「子どもを主たる読者対象として、大人がつくり与える文学」であるという。

私は、我が短大の保育科に入学するまで児童文学に対する知識どころか興味さえなかった。「絵本」自体遠い存在でしかなく、本も苦手であった。しかし、保育の世界で児童文学を無視することなど決してできない。絵本と触れ合うようになりだんだん幼い頃の記憶がよみがえり、絵本の世界に魅了されていった。そんなあるとき、採用試験で絵本の読み聞かせの課題が出され、専門の先生のご協力も得ながら真剣に何度も何度もその絵本を研究することになった。まず主人公になりきりその子の視点に立つことからスタートである。保育現場の事例のように本当に多くの見方があり、主人公の気持ちや脇役の子どもの立場になったりして、色々な事が読み取れるのだ。これほど絵本の世界が奥深いものだと、この時初めて感じ児童文学の魅力、奥深さによやく気付くきっかけとなった。

子どもたちはどのように絵本を読み取っているのだろうか。私の姉が幼い頃、『いえでぼうや』に夢中になり嫌なことがあるとすぐに「家出する！」と言うのが口癖だった。実習の時では、何度も同じ絵本を読み聞かせしているにもかかわらず、好きな場面では必ず興奮して大喜びする子どもの姿を見て不思議さを感じた。私自身は、冒険ものやファンタジーものより日常生活を描いている絵本が大好きで「11ぴきのねずみ」シリーズの絵本を読んではままごとに精を出し夢中になっていたのを覚えている。

谷本誠剛氏は著書『児童文学とは何か』の中で「子どもとはそもそもが物語作者といえる存在である。かれらの心の中には日々いくたの物語が生まれつづけており、その心の物語こそが、児童文学という物語世界の直接のよりどころとなる。」と述べており、児童文学の本質を『子ども読者』という視点で捉えている。

子どもと大人の「読者」としての読み取りは同じではなく、子どもの頃の感性は今とは感じとることができない。しかし、児童文学を通して物語に惹かれる子どもたちの心を探り、子ども理解に広げていくことが保育に携わるものとして重要だと、私は強く感じている。

これから私も遅くはない。児童文学の不思議な世界に生きる感動を子どもと共に分かち合う道を歩みたい。

## ステキなメッセージ

保育科2年 玉那覇香織

私のお気に入りの一冊、それはマックス・ルケード作の『たいせつなきみ』という絵本です。主人公の木彫りの小人パンチネロは、才能や容姿の美しさで仲間と比較され、自信をなくしていました。そんなパンチネロに、パンチネロを作った彫刻家のエリは「おまえはありのままでかけがえのない存在なんだよ」と語りかけます。エリの言葉は「ダメ」というレッテルをはられたパンチネロの心の傷をいやし、本当の価値とは何かを優しく問いかけていきます。

この絵本は、私が高校生の時に、私が通う教会の牧師婦人から頂きました。頂いた後、家に帰るなりすぐに自分の部屋で読んだのを覚えています。何度も何度も繰り返して読んでいくうちに、他人の評価を気にし、自信のない主人公パンチネロの姿が、当時の私自身の姿を見ているようで仕方ありませんでした。「ありのままがいい」「かけがえのない存在なんだ」そう語りかけるエリの言葉が、私の価値観をかえました。

私たちを創造された神も、聖書の中で私達一人ひとりに同じ様なメッセージを送っています。「わたしの目には あなたは高価で尊い。私はあなたをあいしている。イザヤ書43:4」私やあなたを愛して下さる神に、あなたも是非出会って下さい。とってもステキな神さまだから！

---

[前の記事へ](#) 【 [ソフォス目次へ](#) 】 [次の記事へ](#)

---

## 自己探求への道

英語科2年 友寄 笑倫子（名護高校卒）

キリ短で得たもの、それは多くの仲間とさまざまな経験である。キリ短に入学して『暇』と言える時間はなかった。私にとってキリ短のキャンパスライフは毎日が充実していて二年間が瞬く間に過ぎていった。

キリ短のキャンパスの中で好きな場所は図書館である。私が図書館を訪れると、必ず仲間達も図書館にいた。レポート、グループ学習、テスト勉強と課題をするために図書館には多くの仲間がいた。難しい課題でも仲間達と勉強しているとなぜか捗るのである。やる気を失っていても、図書館で勉強している仲間をみて、何度もやる気をもらっていた気がする。私がこの二年間、様々な面で成長できたのは、仲間と切磋琢磨できたからだと確信している。その思い出の場所が図書館であった。

私が毎日思っていることがある。それは、図書館にいる時間をもっと増やすことができれば・・・ということである。私は勉強以外で図書館を利用する時間をあまりもてなかった。私にとって、図書館は勉強する場所だけではなく、いるだけでリラックスできる場所でもあった。私は用がなくても図書館を訪れた。静けさの中を歩いて目に飛び込んでくる書物を読み始めるのが好きだった。私は書店でも同じようなことをするのが好きである。図書館の雰囲気と書物がもたらす独自の世界に魅力を感じる。

最後に私の座右の銘を紹介したい。『信はちからなり』である。

多くの人々が世の中の流れに流され、自分を失い、時間に追われ毎日を過ごしている。私もその中の一人だろう。キリ短のキャンパスライフと図書館での思い出をふり返って改めて痛感したことは、自分の感受性を大切にしたいという気持ちである。



一冊の本が人生をほとんど決めてしまうことがあるのです。

私から農業を土台にした非行少年の教育に関心があると聞くと、「じゃあ、富岡幸助を知ってるでしょ？ぼくの友人がかれの創った北海道家庭学校にいるよ。」とその人は言いました。「知りません。」と答えると、「大学で何を勉強してきたの?」とからかわれ、恥ずかしさで顔がカーッと熱くなりましたが、あんまり悔しいので、すぐに名前を書いてもらいました。1975年4月30日山形県上山市狸森『山びこ学校』(1951年)の舞台での出来事です。

それから29年近くたち、去る2月15日正午過ぎから小一時間、私は母校三田の慶應義塾図書館前庭を歩きつ戻りつし、記憶を呼び戻そうとつとめました。図書館は国の重要文化財に指定されており、慶應のシンボルとして親しまれておりますから、〈ああ、あのゴシック式煉瓦館ね〉とわかってくださる方もいらっしゃるでしょう。

その日は入試期間中で入館できませんでした。かつての私は、帰京してすぐ、駆け込むようにこの図書館の木製の扉を引いて開け、黒光りする床ワックスの香りを鼻の奥で嗅ぎながら、薄暗い館内を革靴でギッチギッチとすすみゆき、狸森からのいち枚のメモ用紙をたよりに、著者名カードで「富岡幸助」を検索しましたが見つからず、代わりに「留岡幸助」を発見しかつ『留岡幸助君古稀記念集』(1933年)なる書名を認め、階段を上ってこれを2階の司書氏に請求しました。請求票には「EC/5A/960」と3段に書いたはずです。手渡されたのは年季が入った菊判緑色クロス表紙金椽厚さ5センチの美本でした。私はずっしりと重い書物を2階閲覧室の5人並びの端っこ入口近くの席に運び、鉄製傘に覆われた各自用の蛍光灯を点け、頁をめくりはじめたのでした。数頁、数十頁、百頁と読み進むにつれ、やや興奮状態に陥りくこれだ!これだ!!これだ!!!と私の内なる声が叫びました。

いったいどんな本だったのでしょうか?本書は、古稀を迎えたものの再起不能の病床にある留岡を慰めるために、後継者牧野虎次(後の同志社総長)ら友人たちが、留岡の代表的著作を編み友人たちの所論を付したものです。そこには、養父の猛反対に屈せずキリスト教に入信した青年が同志社神学校に学び、そこで監獄改良を志し、京都丹波での牧師・北海道空知での教諭師を経て不良少年感化事業の重要性を確信し、米国で実地にこれを学び、1899年東京巢鴨にキリスト教信仰に立ち自然と家族的生活を重んじる家庭学校を創設し相当の成績をあげ、傍ら内務省囑託として地方の貧困問題改善事業に従事し、この両者を総合的に展開するために、1914年北海道北見国社名淵に1千町歩の土地払い下げを受け、不良少年と入植者を受け入れる家庭学校農場を開設し、以来20年におよぶ実践者の「確信的思想」が綴られていたのです。

約3分の1を読み終え表紙を閉じた私の眼に夕陽のあかみが映りました。ついで、階段を一段一段ゆっくり下りていきますと、スタンドグラスから「ペンは剣よりも強し」(ラテン語)の声が耳に届きました。そのとき、いまも北海道家庭学校でこのしごとが引き継がれているという狸森の人のことばを強く意識したのです。私がかれが初めてかれの「確信」を受け継ぐ人々の群れに連らなりたいたいと思った瞬間です。

さて、それから15年後、私はそこに行き、壮年期の13年間をそこで過ごしました。そして1年目の1990年に、そこにある「留岡幸助君古稀記念文庫」(1934年落成)の書庫の中で、まさしく本書に再会したのです。保管状況は極めてよく5冊を数えました。本稿執筆を機に、私は本学図書館長に本書の寄贈依頼文書の発送を願い出ます。これがかなえばここ沖縄県初の本書初版本収蔵図書館となります。(復刻版は1987年大空社刊。)

## 本学教職員の最近の著作・執筆

### ■山里恵子(英語科教授)

「第4章通訳・翻訳」『言語教育学入門』山内進編著 大修館書店2003

「第6章通訳・翻訳」『言葉の諸相—応用言語学入門』山内進編著 沖縄応用言語学研究会  
2002

### ■大山伸子(保育科助教授)

『生誕120年記念 宮良長包作曲全集』大山伸子編・校訂 琉球新報社2003

『宮良長包作曲全集』三木健・大山伸子編著 ニライ社02004

「長包音楽の魅力」『沖縄うたの絵本 えんどうの花 宮良長包メロディー』松崎洋作[等]著 ニライ社2003

### ■近藤功行(総合教育系教授)

「文化・儀礼・宗教・祭祀」『介護福祉学習事典』吉田宏岳[監]医歯薬出版2003

『与論島における死生観と終末行動をめぐる人類生態学的研究』斯文堂2003

### ■吉村杜明(保育科講師)

「ウォーホル: Andy Warhol」『美術鑑賞宣言』山本朝彦[等]編著 日本文教出版2003

## 2003年度新規受入雑誌

1. 国際法外交雑誌
2. 国際問題
3. 国際交流
4. 国際協力
5. 国際協力事業団年報
6. 宗教研究
7. 世界経済評論
8. 法律時報
9. 民族学研究
10. 通訳・翻訳ジャーナル
11. Speech Communication Education:スピーチ・コミュニケーション教育
12. Human Communication Studies:ヒューマンコミュニケーション研究
13. Applied Linguistics
14. Asian Survey
15. Comparative Studies in Society and History
16. The Economist
17. Foreign Affairs
18. International Organization
19. International Economic review
20. Anthropos
21. The Japanese Economic Review
22. JACET Bulletin
23. The Journal of Japanese studies
24. Journal of Pragmatics
25. LANGUAGE & COMMUNICATION: an interdisciplinary journal
26. Language testing

---

[前の記事へ](#) 【 [ソフォス目次へ](#) 】 [次の記事へ](#)

---

## 2003年度 図書館利用状況 (2003年4月～2004年1月)

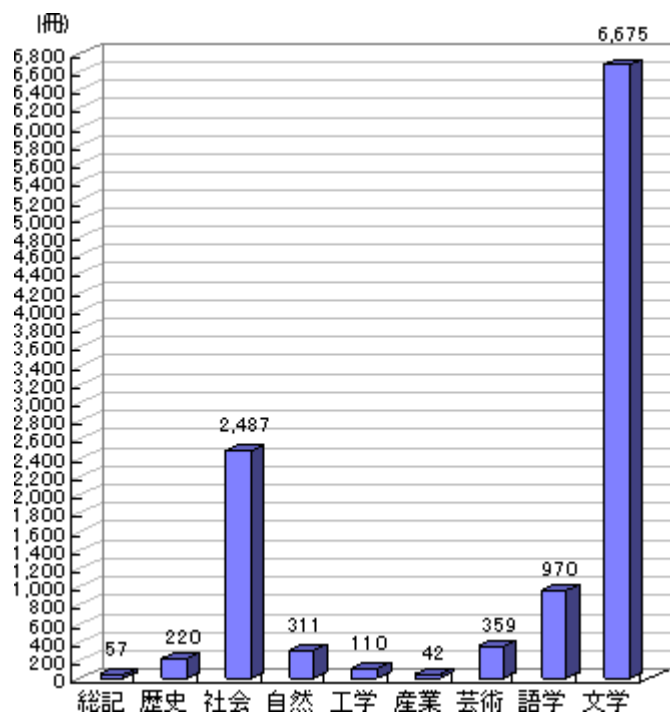
### 1. 学生

	英語1年	英語2年	保育1年	保育2年	合計
人数	946	731	1,729	1,244	4,650
冊数	1,565	1,398	5,453	3,509	11,925

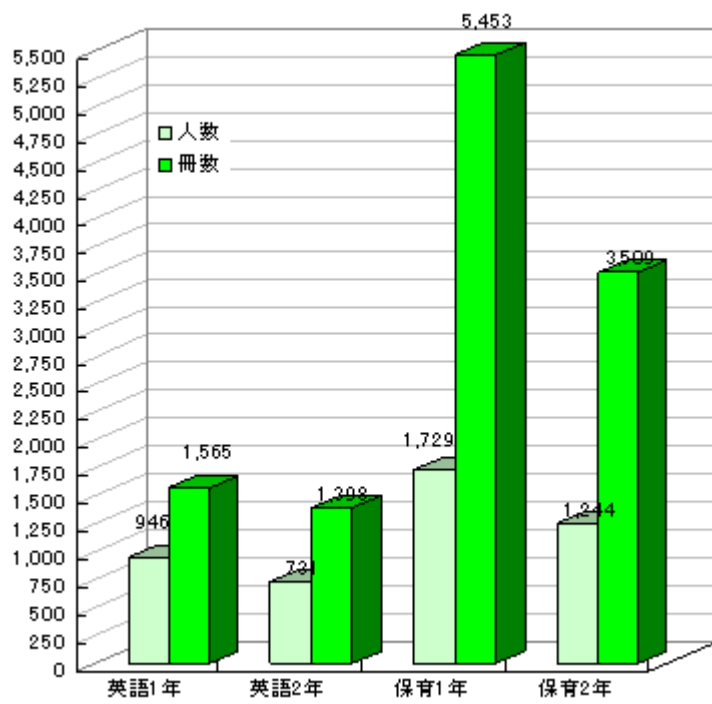
### 2. 学生・職員・学外者別貸出状況

	学生(計)	職員	学外者	合計
人数	4,650	246	284	5,180
冊数	11,925	487	538	12,950

### 3. 分野別貸出冊数



### 4. 学生貸出冊数



---

[前の記事へ](#)   [【 ソフトス目次へ 】](#)   [次の記事へ](#)

---

## 図書館名の変更について

図書館長 比嘉健次郎

本年4月、「沖縄キリスト教学院大学」が開学する。これに伴い、「沖縄キリスト教短期大学図書館」も「沖縄キリスト教学院図書館」と、その名を改めることになった。本学は1957年に各種学校として創設され、二年後に短期大学として認可されたのであるが、1970年までは「沖縄キリスト教学院短期大学」と呼ばれていた。草創期の卒業生は、未だに懐かしさを込めて母校を「学院」と呼んでいる。その“学院”が四年制大学と図書館の名称としてよみがえったのである。

1989年の西原キャンパスへの移転に備えて、「新キャンパス構想委員会」が設置された。研究・教育の場としての大学の中心に位置すべきものは、勿論、図書館である、と我々は考えた。同時に、キリスト教主義高等教育機関としては、“主を畏れることは知恵の初め、聖なる方を知ることとは分別の初め”(箴言 9:10)という教えを決して忘れてはならないとの議論が委員会の大勢を占めた。この議論の中に発芽し、ユニークな設計として結実したのが、現図書館の姿である。チャペルの下に図書館を置くという設計には本学の教育理念が表現されている。

図書館正面の壁に、本キャンパス定礎の言葉が刻み込まれている。「あなたたちは真理を知り、真理はあなたたちを自由にする」(ヨハネによる福音書 8:32)という言葉である。国立国会図書館の壁にも、この聖句をもとにした「真理が我らを自由にする」という言葉が刻まれていたと記憶しているが、この場合、“真理”が意味するところは、学問的・科学的探求の成果としての真理のことであろう。ところが、「あなたたちは真理を知り、真理はあなたたちを自由にする」というイエスの言葉は、「わたしの言葉にとどまるならば、あなたたちは本当にわたしの弟子である」という言葉に続くものなのである。つまるところ、真理とはイエスによって啓示されるものであるということであろう。ここから、“主を畏れることは知恵の初め、聖なる方を知ることとは分別の初め”という箴言の言葉に我々は容易に思い至り、チャペルの下にある図書館、図書館の上に位置するチャペルの意義を納得する。

新たに創設される沖縄キリスト教学院大学人文学部英語コミュニケーション学科の目標は、有能で、分別ある異文化コミュニケーターの育成となっている。“分別ある”という言葉の中に、“主を畏れることは知恵の初め、聖なる方を知ることとは分別の初め”という聖句の響きを我々は聴き取り、キリスト教主義高等教育機関としての精神が脈々として引き継がれていることを知る。

図書館名の変更を機に、本学図書館の設計のもととなった精神に思いを馳せることとなった。図書館を訪れる学生諸君、「あなたたちは真理を知り、真理はあなたたちを自由にする」という大理石の石板の前に少しばかり足を止め、本学の土台石となっている言葉について考えるひと時を持っていただきたい。

(ひが けんじろう: 英語科教授)

## 編集後記

本館の貸出図書の半数は文学で占めているが、約90%が児童文学である。なかでも絵本の貸出しが多い。

1学期に「絵本を100冊読んで感想を書く」は保育科の伝統となっているようだ。

吉浦貴子さんのように数々の作品を発表し、賞を受賞してプロの児童文学作家として活躍している卒業生もいる。今回は児童文学特集を組んでみた。

---

[前の記事へ](#) 【 [ソフォス目次へ](#) 】 [次の記事へ](#)

---